

## お知らせ

本誌『陽明学』は、前号（十六号）を以て市販（有料）という形を終えました。本号以降は、『二松学舎大学東アジア学術総合研究所陽明学研究部』発行となり、研究所（研究部）の紀要となりました。

従いまして、現在までご購入いただきました読者の方々と、継続希望の方は研究所（研究部）まで文書でお申し込み下さい。

◎申込先

〒一〇二—八三三六

東京都千代田区三番町六一六

二松学舎大学東アジア学術総合研究所  
陽明学研究部

## 編集後記

二松学舎の創立者、三島中洲先生は著名な陽明学者であり、先生には「良知一覺照乾坤・拔本塞源功可尊・天假數年精訓詁・洗除捏造宋儒言。」の作もある。因みに陽明学は自然に二松学舎の建学精神とされ伝統として脈々と生き続けているのである。

本学の陽明学研究所は全日本大学中唯一の研究所であり、全国の大学が陽明学を重視する現状は更に二松学舎大学が陽明学を重視する立場を突出させ、またこの本学伝統精神の堅持こそ二松学舎の學問的な精髓の所在なのである。

陽明学研究所は昭和五十三年四月創設され、初代の陽明学研究所所長は浦野匡彦先生で、研究所顧問は安岡正篤先生、研究所主事は小林日出夫先生であった。陽明学研究所の創立から十七年の歳月が立った。この間ただ日本の陽明学研究の風潮を振興しただけでなく、間接的に中国の陽明学の重視研究に影響した。同時に陽明学の日中交流も着々と進んでいる。特に陽明学機関誌の存在で日本の陽明学研究者の研究発表の場所になっているのである。

平成十六年四月一日付で本学は「東アジア学術総合研究所」を新設し、旧陽明学研究所が吸収され、陽明学研究部の名稱で再出発したが陽明学を尊重することは、本学建学精神の継続である。新しい運営委員会で陽明学研究所時代の機関誌『陽明学』は今後も継続して独立発行を決定しました。

さて、機関誌『陽明学』第十七号（那智淳斎特集）をお届けする。

本誌の巻頭文は四本で、その一は東洋大学文学部吉田公平先生の玉稿、その二は東洋大学文学部中国哲学文学科小路口聡先生の玉稿、両玉稿を頂戴し感謝に堪えない。その三は本学大学院博士課程修了の菊地誠一氏の玉稿、その四は張の執筆である。

特集に移って、濱久雄氏、横須賀司久氏、小林日出夫氏、佐々木鍾三郎氏等それぞれ斯界の碩学專家に執筆願えたことは幸いなことであった。また二松学舎大学宋明資料輪読会の諸先生の研究報告、また本誌の紹介と短評・陽明便り、学会報告等は正田啓佑先生より全面的お世話になった。

陽明学研究部は新体制のもとで、運営し発展させていきたい。また大方のお力添えを懇請して已まぬ。

次号は春日潜庵特集ということで準備を進めている。ご期待を乞う。（張明輝記）